

体育・保健体育科 実践提案

— 宮下和弥 伊藤潤 河合真理 窪田泰三 佐藤睦 山田雄一郎 —

1 これまでの保健体育科の取組

保健体育科では、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成すること」を目指し、全ての児童生徒が運動の楽しさを味わうことができるように研究を進めてきた。

運動の楽しさとは何かと考えたときに、従来の体育では、「運動ができること＝楽しい」との捉えが大きかった。児童生徒にとって、やはり運動ができることは大きな喜びであり、自信となるのだが、楽しさとは単に技能の高まりを指すだけではない。例えば、よりよい動きを仲間と共に追究していく過程において、運動を以前より理解できるようになったり、仲間と支え合うことで前向きに取り組めたりすることも運動の楽しさを味わうことにつながると考えている。

生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、運動を「する、みる、支える、知る」の多様な視点で捉え、前期課程と後期課程との接続を重視しながら、9年間を通じて育みたい資質・能力を表1のように設定した。

(1)各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
(2)運動の全体をイメージで捉え、部分の動きやそれを支える要素等を明らかにすることで、運動について自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
(3)生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

【表1 体育・保健体育科における9年間を通じて育みたい資質・能力】

今年度は、表1の資質・能力の中でも、特に(2)の「思考力・判断力・表現力等」の育成に重点を置くことにした。これは、本校の児童生徒の実態として、主にゴール型種目において、一度もボールに触れることなくゲームが終わってしまう児童生徒がいたり、運動が得意な子だけでゲームが成立してしまったりするなど、運動の二極化が顕著に見られるからである。

このことから、主に球技のゴール型種目における状況判断に着目し、児童生徒が表2のように運動の見方・考え方を働かせながら資質・能力を育成するよう

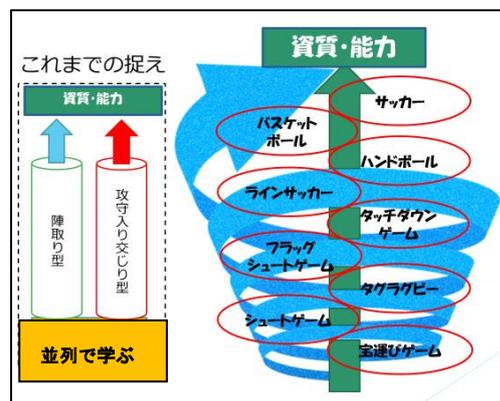
(1)運動の全体をイメージする 集団種目では、ボール保持から得点を決めるまでの一連の流れ
(2)運動の部分の動きを捉える 集団種目では、状況に応じて今自分がする判断のこと 「何を」 → 「どこへ」 → 「いつ」 (プレーの選択) (スペースの意識) (タイミングの意識)
(3)運動の動きを構成する要素から仲間に声をかける 集団種目では、位置関係の把握、個人技能のこと

【表2 集団種目における運動の見方・考え方】

努めている。

運動の見方・考え方を働かせ、9年間の学びが連続したものになるように、系統性のある指導を大切にし、図1のように実践を続けている。

また、単元構想においても、系統性を踏まえた指導内容の一層の充実を目指し、教材開発に取り組んでいる。



【図1 系統性を踏まえたボール運動のカリキュラムの捉え】

2 自己実現に向かう資質・能力にかかわる手立て

(1) 問題解決力について

課題解決の見通しをもち、試行錯誤しながら、よりよい動きを追究し続ける姿

「課題解決の見通しをもち」とは、集団及び個人の運動課題を把握し、その課題を解決するために既習の知識及び技能や状況判断の視点を活用しながら実践しようとすることである。

「試行錯誤しながら、よりよい動きを追究し続ける」とは、実践の様子を自他の評価を受け入れながら、必要に応じて取り組み方を変え、よりよい動きを求めて繰り返し粘り強く実践することである。

体育・保健体育科における問題解決力を育むための手立て

①リズム言葉を使って、運動全体をイメージできるようにする。

2年生の「投の運動遊び」では、投動作の一連の動きを運動の全体と捉え、「トン・グー・ビュン」のリズム言葉を用い、6年生の「ふぞくっ子バレー」では、一連の球の流れを運動の全体と捉え、「キャッチ、フーワッ・キャッチ、ポーン・バーン！」のリズム言葉を用いて授業を展開していく。また、それらのリズム言葉を、視覚的にとらえやすくするために、掲示物を作成し、児童生徒が毎回確認できるようにする。

②状況判断の視点「何を」「どこへ」「いつ」を使って、状況に応じた動きの判断をできるようにする。

状況判断の視点として、6年生の「ふぞくっ子バレー」では、「何を」「どこへ」を中心的に取り上げ、特に2本目から3本目の場面において、2本目が上がった状況に応じて相手コートにどう返していくか適切な判断ができるよう、示範をしたりストップゲームをしたりすることで、児童生徒がよりよい動きを追究できるようにする。

①②の手立ては、ゲームや試技等で連続する学びの営みの中で、常に自分の動きを振り返りながら繰り返し挑戦できるようにすることで効果が得られると考えている。

(2) 関係構築力について

仲間とよりよい動きを追究する過程で、動きの高まりを目指し練り合う姿

「仲間とよりよい動きを追究する過程」とは、技能の高まりを目指し、思考したことを言葉や動作で仲間伝えることである。

「動きの高まりを目指し練り合う」とは、既習の知識・技能を用いて個の動きについて互いにアドバイスしたり、状況判断の視点を用いてボール運動等における連携について自分の考えを伝えたり相手に要求したり相手を受容したりすることで動きを高めようとするのである。

体育・保健体育科における関係構築力を育むための手立て

①仲間要求したり仲間の考えを受け入れたりすることのよさを伝え、ゲームや試技等の連続する学びの営みの中で活用する姿を価値付ける。

3年生「タグラグビー」では、児童の発達段階を考えると、自分でトライをすることの欲求は高いが、単元が進むにしたがってディフェンスの質が上がり、自分勝手なプレーではトライすることが難しくなり、連携の必然性が生まれる。

このようなタイミングで単元目標に向かって、仲間

に要求したり仲間の考えを受け入れたりし、よりよい動きにつながった姿を盛んに価値付けたい。また、仲間要求したり仲間の考えを受け入れたりするために、教師が常に働きかけるようにする。必要に応じてICT機器や掲示物を用いて仲間同士でコミュニケーションが取れるようにする。

(3) 貢献する人間性について

集団の中での自分の立場を自覚し、自己や他の運動、学習集団を高めるために行動する姿

「集団の中での自分の立場を自覚し」とは、(1)(2)で培った力をもとにグループや学級に対して自分が学習活動中にどのように貢献することができるか考えることである。

「自己や他者の運動、学習集団を高めるために行動する」とは、知識・技能を高めるために、学びを学級全体に広めたり、学習集団として高まるために働きかけたりと、どのように貢献することができるか考えたことを実践する姿である。

体育・保健体育科における貢献する人間性を育むための手立て

①自他の特性を認めたり、それらを踏まえた動きのこつや作戦を提案したりする姿を価値付ける。

個々の苦手分野や得意分野を把握し、互いを尊重し合いながらよりよい動きを追究するために、ゲームや試技の記録を児童生徒が互いに把握できるようにする。

自他の特性を踏まえた動きのこつや作戦を提案することは教師でも難しいことだが、低学年では、グループ会や反省会等の場面で互いの成長を認め合ったり喜び合ったりする姿を大切に、中学年では、全員が楽しむためにはどうすればよいかみんなでルールを考えたりする姿を大切にする等、段階的に指導することで身に付けられるようにする。

②教材によって、一人一人の違いを生かすことができるような活動を仕組む。

「ふぞくっ子ハンドボール」では、技能の差を埋め、個のよさがより表れるようにするために、味方のボールをキャッチできなくてもタッチすれば、マイボールとなるルールを設定し、誰もが活躍できる場を設けた。

また、9年生「リズムダンス」では、男性の力強さと女性のしなやかさが生かされるようなグループを構成し、男女共習の中でもあえて男女別で異性の特性を理解する学習を展開したいと考えている。

3 単元の指導計画

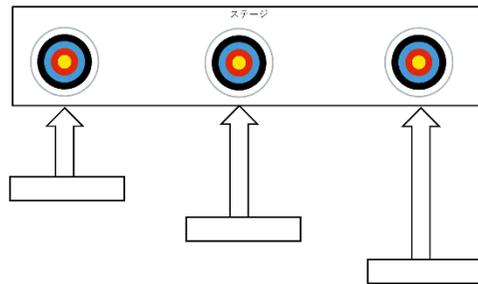
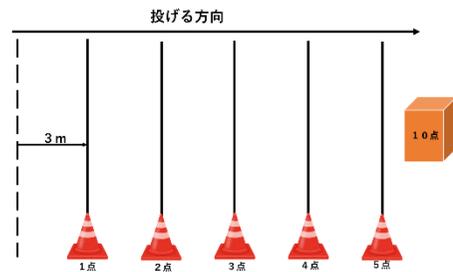
学年	第2学年	単元名	投の運動遊び 「遠くへビューン！」(全4時間)
単元で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・投げ手を頭の後方へ引き上げ、踏み出し足を投方向へ踏み出し、体をねじって、様々なものを遠くに力一杯投げることができるようにする。〔知識及び技能〕 ・様々なものをより遠くにとばすための動きを考えたり、友達の動きのよさを見付けたりしたことを、友達に伝えることができるようにする。 〔思考力、判断力、表現力等〕 ・勝敗を受け入れたりきまりを守ったりして、誰とでも仲良く進んで運動に取り組むことができるようにする。「学びに向かう力、人間性等」 			
時	主な学習活動とねらい	自己実現に向かう資質・能力を発揮している姿	
①	様々な物を投げることで、投げるものの形や大きさなどによって投げ方が変わることを楽しむことができるようにする。	様々な物の投げ方について何度も繰り返しながら、よりよい動きを見付けている姿(問題解決力)	
②	準備の仕方や授業の進め方を知ること、学習に見通しをもつことができるようにする。	ゲームの行い方について知ること、既習(ボールゲーム)の投げ方を思い出しながら学習に見通しをもつ姿(問題解決力)	
③ 本時	「トン・グー・ビューン」のリズム言葉を意識しながら、遠くに向かって投げることができるようにする。	動きの高まりを実感し、自分の動きを友達に見てもらおうとしたり、動きについて友達に伝えたりする姿(関係構築力)	
④	リズム言葉に沿って体を連動させながら、特に「ビューン」のときに勢いよく投げ手を振ることで、より遠くに力一杯投げることができるようにする。	自分や友達がボールをより遠くに投げることができた動きについて、友達に伝える姿(貢献する人間性)	
研究にかかわる見届けの視点と手立て			
問題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなものの投げ方について何度も繰り返しながら、よりよい動きを見付けている姿 →示範や「トン・グー・ビューン」のリズム言葉を用いて、運動の全体をイメージできるようにする。 ・ゲームの行い方について知ること、ボールゲームの際の投げ方をイメージながら学習に見通しをもつ姿 →ボールゲームの際の投げ方を振り返る時間を位置付ける。 ・遠くに投げるための動きについて理解し、より遠くに投げるために何度も練習する姿 →自分の動きを振り返りながら、繰り返し挑戦できるよう投動作を止めて確かめたり、リズム言葉を意識した動きができるよう声をかけたりする。 		
関係構築力	<ul style="list-style-type: none"> ・動きのよさを実感し、自分の動きを友達に見てもらおうとしたり、動きについてリズム言葉を使いながら友達に伝えたりしている姿 →動きのよさを実感することができるよう、リズム言葉のどこができるようになったのか具体的に声をかける。 →友達によくなった動きを伝えている姿を価値付ける。 		
貢献する人間性	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達がボールをより遠くに投げることができた動きについて、友達に伝える姿 →動きがよくなったことを一緒になって喜び、動きの高まりについて全体に紹介することのよさを伝える。 →記録をグループカードに位置付け、毎時間共有する時間を設けることで、友達の記録に関心をもつことができるようにする。 		

4 教科にかかわる本時のねらい

「トン・グー・ビュン」のリズム言葉を意識しながら、遠くに向かって投げることができる。〔知識及び技能〕

5 本時の展開（3/4）

児童の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 準備・準備運動（ACP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの準備をグループで協力して行う。 ・紙鉄砲を行う。 <p>2 全体計画会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の示範から、体重移動をするとより遠くに飛ばすことができると理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「トン・グー・ビュン」をいしきして、とおくをめざしてなげよう。</p> </div> <p>3 ゲーム1（〇点目指してビュン！）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度も繰り返しボールを投げ、より高い点数のところまでボールを投げることを目指すゲームをする。 <p><子供の姿></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・足を前後に開いて投げる。「トン」 ・腕や肘を上げて投げる。「グー」 ・足を前に踏み出して投げる。「ビュン」 ・腕を振って、体を少しねじって投げる。「ビュン」 </div> <p>4 ゲーム2（何点とれるかな）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠くの的に向かって投げ、より多くの点を取ることを目指すゲームをする。 ・ゲーム1での点数を参考にしながら、自分に合った場を選択する。 <ul style="list-style-type: none"> ・足を前後に開いて投げている。（1番近い場） ・足を前後に開き、腕や肘を上げて投げている。（真ん中の場） ・足を前後に開き、腕や肘を上げ、足を前に踏み出して投げている。（1番遠い場） <p>5 全体反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より遠くに投げることができた自分の姿やグループの友達の動きのよさについて振り返り、交流する。 ・次時の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「ビュン」のときに、足を前に出してなげると5点をとることができました。</p> </div>	<p>教師の手立てと見届け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力しながら、準備をしているグループを価値付ける。 ・紙鉄砲を鳴らすときも、「トン・グー・ビュン」を意識して行うように声をかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>研究に関わって</p> <p>〔見届けの視点〕</p> <p>動きのよさを実感し、自分の動きを友達に見てもらおうとしたり、動きについて友達に伝えたりしている姿をゲームの中の動きで見届ける。（関係構築力）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム言葉を言いながら、「トン・グー・ビュン」を意識して投げている姿を価値付ける。 ○友達に動きのよさを伝えている児童を価値付ける。 ○点数が伸びたことを一緒になって喜び、友達にも見ってもらうよう促す。 ・自分に合った場を選び、より遠くに投げる動きを追究している児童を価値付ける。 ・動きが高まったときには、一緒になって喜び、友達同士でも喜び合うように促す。 ・「グー」のときに「グー——」などためて投げるなどいろいろな投げ方を試している姿を価値付ける。 ○グループカードに記録した結果を見ながら、友達の記録に関心をもつ時間を位置付ける。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〔評価規準〕</p> <p>リズム言葉を意識しながら、体を連動させ、遠くに向かって投げている。</p> <p style="text-align: right;">〔知識・技能〕</p> </div>



3 単元の指導計画

学年	第3学年	単元名	ゴール型ゲーム「タグラグビー」(全8時間)
単元で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・パスを受ける際に攻撃が有効となる立ち位置を理解し、状況に応じて位置取りを変えながら味方からパスを受け、トライにつなげることができるようにする。〔知識及び技能〕 ・ボールを持っていないときの動きについてグループの作戦を考え、それを作戦板を使って仲間に説明したり、ゲーム中に声を掛けたりすることができるようにする。〔思考力、判断力、表現力等〕 ・仲間にふさわしい助言や励ましをしながら取り組むことができるようにする。〔学びに向かう力、人間性等〕 			
時	主な学習活動とねらい		自己実現に向かう資質・能力を発揮している姿
①	ラグビーやタグラグビーの動画を見てタグラグビーについてイメージをもったり、学習の流れや進め方、ルールなどを理解したりすることで、学習の見通しをもつことができるようにする。		ゲーム領域の学習における既習の動きを想起し、タグラグビーでも活かせる動きを考える学習の見通しをもつ姿（問題解決力）
② ③	試しのゲームを行い、どこへ走るとよいかを考えながらボールを運び、トライすることができるようにする。		パスを受けるプレーヤーがボールを持ったときに、「どこへ」走るとトライにつながりやすいかを、振り返りの場面で仲間に伝えている姿（貢献する人間性） ボールを持ったときの動きについて考え、相手がいらない場所を見つけて走り込んでいる姿（問題解決力）
オープン戦	④ ⑤	グループの仲間とパスをつないでボールを運び、トライすることができるよう、ボールを持っていないときの動きについて考えることができるようにする。	トライするために、ボールを持っていないときに「どこへ」動くよいかを考え、仲間と連携してプレーしている姿（関係構築力） 攻撃が有効となる位置取りについて考え、特にボールを保持していないときの動きを追究している姿（問題解決力）
	⑥	タグを取られないように走るコツや、タグを取るためのコツについて、実践しながら仲間と交流し、工夫して走ったり、タグを取ったりすることができるようにする。	タグを取られないように走ったり、タグを取ったりするための動きの工夫を考え、プレーしている姿（問題解決力）
	⑦	リーグ戦に向けて、グループの特性や課題をふまえて立てた作戦に沿ってボールを運び、トライを目指すことができるようにする。	自分の考えを仲間に伝え合いながら、たくさんトライするためのグループの特性に合った作戦を考えている姿（関係構築力）
リーグ戦	⑧	リーグ戦を通して、グループで考えた作戦を生かしてボールを運び、仲間と力を合わせてトライすることができるようにする。	勝敗に関係なく、相手チームの頑張りや動きのよさに気付き、それを全体で紹介したり、ゲーム中に起きた問題について、その時の相手チームと話し合いを通して解決したりしている姿（貢献する人間性）

研究にかかわる見届けの視点と手立て

<p>問題解決力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム領域の学習における既習の動きを想起し、ラグビーでも活かせる動きを考える学習の見通しをもつ姿 →ラグビーやラグビーの動画を見る時間を位置付けることで、種目についてのイメージをもつことができるようにする。 →これまでに学習した動きの中から使えそうな動きや似た動きはないかを問うことで、学習の見通しがもてるようにする。 ・ボールを持ったときの動きについて考え、相手がいない場所を見つけて走り込んでいる姿 →スペースがどこにあってどこに走り込むとよいかを確認するために、ストップゲームを位置付ける。 ・攻撃が有効となる位置取りについて考え、特にボールを保持していないときの動きを追究している姿 →映像や作戦板を使って動きを確認する。 →状況を確認して、全体で動きを共有するために、ストップゲームを位置付ける。 ・タグを取られないように走ったり、タグを取ったりするための動きの工夫を考え、プレーしている姿 →タグ取り形式のゲームや試しのゲームを位置付ける。
<p>関係構築力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トライするために、ボールを持っていないときに「どこへ」動くよいかを考え、仲間と連携してプレーしている姿 →全体の立ち位置を平面上に表すことで、動きの理解や活発な意見交流へつなげるために作戦板を準備する。 →ICT 機器を用いることで、ゲーム中の動きを振り返ることができるようにする。 ・自分の考えを仲間に伝え合いながら、たくさんトライするためのグループの特性に合った作戦を考えている姿 →作戦の例を提示し、グループの特性と照らし合わせて選択できるようにする。 →ゲーム後すぐに振り返りを位置付ける。
<p>貢献する人間性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パスを受けるプレーヤーがボールを持ったときに、「どこへ」走るとトライにつながりやすいかを、振り返りの場面で仲間に伝えている姿 ・勝敗に関係なく、相手チームの頑張りや動きのよさに気付き、それを全体に紹介したり、ゲーム中に起きた問題について、その時の相手チームと話し合いを通して解決したりしている姿 →何がよい動きなのかを判断するための掲示を板書に位置付ける。 →自分で見つけた動き方のコツや相手の動きのよさを認め、学級の仲間に紹介している姿を価値付ける。

4 教科にかかわる本時のねらい

味方がタグを取られた場面において、ボールを保持していないプレーヤーがとるべき位置取りの工夫が必要であることに気づき、作戦板を使って仲間に説明したり、ゲーム中に声をかけて仲間に伝えたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕

5 本時の展開（４／８）

児童の学習活動	教師の手立てと見届け
<p>1 準備・準備運動をする ・チームごとにタグやボールの準備をし、準備運動を行う。（タグ取り形式のゲーム、ACP）</p> <p>2 全体計画会をする ・味方がタグを取られた後に、思うように攻めることができず、トライにつなげることができなかった場面を想起する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 味方がタグを取られたときに、ボールを保持していないプレーヤーは、どこでボールを受けるとよいか。 </div> <p>3 グループ計画会をする ・グループの作戦を考え、動きを確認する。</p> <p>4 前半練習をする ・攻撃が有効となる位置取りでパスを受けたことにより、トライできた場面や仲間がタグを取られた後、パスを受けたが、トライにつなげることができなかった場面を振り返り、どこへ動けばよいかを確認する。</p> <p>5 後半練習（ゲーム）をする ・グループの仲間と考えた作戦を生かして、トライすることを目指してゲームをする。 ・ボールマンや相手との位置関係を考えながらゲームをする。 ・サイドから「どこへ」の視点で、同じグループの仲間に声をかける。</p> <p>6 グループ反省会をする ・パスをつないでトライできた場面において、どこへ動いたかについて振り返りをするこ とでグループの成果を実感する。</p> <p>7 全体反省会をする ・グループや個人の課題を振り返り、次時の見通しや意欲をもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 今日はゲームで勝つことができました。理由は、味方がタグを取られた後、相手がいないサイドに動いてパスをもらうことができ、たくさんトライすることができたからです。次の時間は、もっとトライできるよう、ほかの作戦を考えたいです。 </div>	<p>・味方がタグを取られたときやパスを受けたがすぐにタグを取られてしまい、トライできなかった場面を写真やモデルグループを基に確認し、本時の課題へとつなげられるようにする。</p> <p>・本時目指す動きについて、作戦板に表して位置取りを確認したり、実際に動いたりすることで、イメージできるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 研究に関わって 【見届けの視点】 グループの仲間と協力してトライするために、ボールを持っていないときにどこへ動くよいかを、仲間と考えている姿を練習の場面で見届ける。（関係構築力） </div> <p>○状況を確認して、「どこへ」動くときとボールを運びトライすることができるかを考えられるようにするために、ストップゲームを位置付ける。</p> <p>○動きを理解できるようにするために、作戦板を用いて視覚的に動きを確認できるようにする。</p> <p>・本時目指す動きについて、ゲームの中で見られた動きや新たな気づきを仲間と共有するために、適宜中間研究会を位置付ける。</p> <p>・動きが分からず、困っている子には、移動するとよいスペースに導く。また、その活動が子ども同士でできるとよいことを促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【評価規準】 より陣地をとることができるように、ボールを持っていない人の位置取りについて、作戦板を使って仲間に説明したり、ゲーム中に声をかけて仲間に伝えたりしている。 【思考・判断・表現】 </div>

3 単元の指導計画

学年	第6学年	単元名	ボール運動 ネット型「ふぞくっ子バレー」(全8時間)
単元で育む資質・能力			
<ul style="list-style-type: none"> ・3本目を確実に相手コートに返球したり、相手が捕りにくいボールを返球したりすることができるようにする。[知識及び技能] ・「キャッチ、スロー・キャッチ、ポーン・バーン！」を3本で返球する運動全体のリズムとして捉え、三段攻撃の質をより高める動きを追究することができるようにする。[思考力、判断力、表現力等] ・三段攻撃の質を高めようと仲間の動きに対して助言をしたり、動きのよさを認めたりしながら、チームワークを高めることができるようにする。 「学びに向かう力、人間性等」 			
時	主な学習活動とねらい		自己実現に向かう資質・能力を発揮している姿
①	【試しのゲームⅠ】 ・ゲームの進め方やふぞくっ子バレーのルールを知ることで学習の流れを理解し、試しのゲームをすることができる。		試しのゲームを通して、ゲームの進め方やルール、ふぞくっ子バレーの基本的な動き方について確認したり、ルールの不明瞭な点や動きの課題を仲間と交流したりしながら学習の見通しをもつ姿（問題解決力）
②	【試しのゲームⅡ】 ・ゲームの中からチームの学習課題を見付け、ボール操作や動きを教え合い、励まし合って活動することができる。		「キャッチ、スロー・キャッチ、ポーン・バーン！」の3本で返球する運動のリズムとして捉え、ボール操作や身体操作など自他の動きの見通しをもち、練習やゲームを通して、よりよい動きを追究する姿 (問題解決力)
③ ④ ⑤ 本時 ⑥	【オープン戦】【強化練習】 ・1本目を自分が捕るのか、3本目の準備をするのかを判断したり、2本目のボールに応じて、3本目をねらって返すのか、強く返すのか判断したりすることができる。(状況を判断する視点「何を」プレーの選択) ・2本目の位置や相手のポジションに応じて、2本目を上げる位置を判断することができる。(状況を判断する視点「どこへ」スペースの意識) ・2本目のボールに合わせて走り込むタイミングを判断することができる。(状況を判断する視点「いつ」タイミングの意識)		練習やゲームを通して、相手が取りにくいボールを返球したり、相手のコートへ強く返球したりするなど、動きの質の高まりを追究するために、仲間と意見を出し合いながら試行錯誤している姿（関係構築力）
⑦ ⑧	【リーグ戦】 ・チームの特徴に応じた作戦を考え、三段攻撃を入れてゲームをすることができる。 ・前時と本時を比べ、自他の動きやチームの高まった動きを実感しながら、楽しくゲームを行うことができる。		ゲームを通して、相手チームの動きや作戦のよさを見付けたり、その価値を広めたりしながら、チームワークや三段攻撃の質を高めている姿 (貢献する人間性)

研究にかかわる見届けの視点と手立て

<p>問題解決力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・試しのゲームを通して、ゲームの進め方やルール、ふぞくっ子バレーの基本的な動き方について確認したり、ルールの不明瞭な点や動きの課題を仲間と交流したりしながら学習の見通しをもつ姿 →過去のふぞくっ子バレーの動画を見る時間を位置付け、種目についてのイメージをもつことができるようにする。 →これまで学習した動きの中から使えそうな動きや似た動きはないかを問うことで、学習の見通しがもてるようにする。 →ふぞくっ子バレーのルールで共通理解を図るべき点を確認しながら、試しのゲームを位置付ける。 ・「キャッチ・ポーン、キャッチ・ポーン　バーン！」の3本で返球するリズムから部分の動きに着目し、練習やゲームを通して、よりよい動きを追究する姿 →映像を使ってボールの高さや落下地点の入り方を確認できるようにする。 →映像や作戦板を使って動きを確認することで、自分や仲間の動きを客観的に捉えることができるようにする。 →必要に応じてゲームをストップし、状況を確認して、全体で動きを共有する。
<p>関係構築力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・練習やゲームを通して、相手のコートにねらって返したり、強く返したりするなど、動きの高まりを追究するために、仲間と意見を出し合いながら試行錯誤している姿 →チームや個人の課題が運動全体のどこにあるか、見極めることができるように視点を示すようにする。 →1本目に課題がある場合、「何を」を意識できるように、セッターによってボールの高さを変えてみたり、動きを支える要素に目を向けられるようなアドバイスをしたりする。 →2本目に課題がある場合、「どこへ」を意識できるように、セッターによって3本目の位置取りをセッターの近くにするか、走り込んで返すことができる場所にするかを助言する。 →3本目に課題がある場合、「どこへ」を意識できるように、相手コートに確実に返すために両手でボールを弾くよう助言する。 ・運動の全体のリズムから部分の動きに着目し、声をかけ合い、励まし合ってゲームをしたり、自分たちの動きの成果や取り組みのよさを認め合ったりしながら、チームの課題点を見付ける姿 →ゲーム後にはICT機器を用い、ゲーム中の動きを振り返られるようにし、次のゲームに生かせるようにする。
<p>貢献する人間性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを通して、相手チームの動きや作戦のよさを見付け、そのよさを取り入れながら自チームの動きを高めようと声をかけたり、作戦を考えたりする姿 →自分たちのチームの特徴に応じた作戦を考える上で「何を」「どこへ」「いつ」を視点にして作戦を立てているチームや、ゲームの中でよりよい動きを追究し、声をかけ合って励まし合いながらゲームをしているチームを認め、価値付けるようにする。また、相手チームの動きや作戦のよさに目が向くよう助言する。

4 教科にかかわる本時のねらい

相手コートの「どこへ」返すと相手の捕りにくいボールになるかを考え、三段攻撃の質をより高める動きを追究することができる。

[思考力、判断力、表現力等]

5 本時の展開 (5/8)

児童の学習活動		教師の手立てと見届け
<p>1 準備・準備運動 (ACP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具の準備や準備運動を行う。 <p>2 全体計画会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題を把握し、見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>より多くの得点を入れるには、3本目をどこへ返球するとよいだろうか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・示範を通して、本時大切にしたい状況を判断する視点を理解し、チームで作戦を立てる。 <p>3 ゲーム・作戦タイム</p> <p>【ゲーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3本目をねらって返球したり、相手が捕りにくいボールを返球したりするために、チームの作戦を立ててゲームをする。 ・状況を判断する視点を基に、ゲームの状況に応じた声をかけ合い、仲間の動きを修正・補強しながら取り組む。 <p>【作戦タイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの作戦や仲間の動きの良し悪しを考え、次のゲームの見通しをもつ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・協力して準備・準備運動 (ACP) を行っているチームを価値付ける。 ・本時の目指す動きについて、モデルチームの示範を見せながら理解できるようにする。 ・示範から3本目をねらって返すために、運動全体のどこに着目すればよいか考えるように指導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>研究に関わって 【見届けの視点】 ゲームを通して、相手のコートにねらって返球したり強く返球したりするなど、動きの質の高まりを目指し、仲間と意見を出し合いながら試行錯誤している姿をゲームの中で見届ける。(関係構築力)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・状況判断「何を」を視点として、2本目が上がったとき、ねらって返球するのか、確実に返球するのかを判断するように指導する。 ・状況判断「どこへ」を視点として、3本目をねらって返球するときに、相手コートの空いている場所を見つけて、ボールを返球するように指導する。 ・必要に応じてストップゲームを行い、よかったプレーやうまくいかなかったプレーの原因を追究できるようにする。 ・動きが身に付けられない児童の後ろに立ち、一緒に動いて、動きをつかませるようにする。 ・プレーに対して喜んだり、仲間に励ましの声をかけたりしながら、チームワークを高めてゲームに取り組むことができているチームを価値付ける。 ・3本目をねらって返球する動きが見られた児童やチームの姿を認め、価値付ける。
試合で確認することの例	試合中の声かけ例	
<p>ボールを投げ入れ、1本目、2本目、3本目の動きを確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1本目はキャッチする人の名前を呼ぼう。常にボールにおへそを向けよう。 ・2本目が上がったときは、3本目を返球する準備をしよう。 ・3本目は、2本目のボールの動きを見て、「打て」「返せ」を判断する声をかけよう。 ・3本目を返球する際、「奥」「右が空いてる」など、どこへ返球するとよいか判断する声をかけよう。 	
<p>1本目や2本目でキャッチする人の名前をみんなで呼び、おへそをボールに向ける動きを確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サーブが来る前に「構えて」と声をかけ合おう。 ・キャッチする子を判断して「～さん」と名前を呼ぼう。 ・ボールを持たない人は、おへそをボールに向けてカバーの準備をしよう。 	
<p>※【ゲーム】→【作戦タイム】を3回繰り返す。</p> <p>※必要に応じて中間研究会をゲーム間に入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得点までの流れがよかったプレーを交流し、作戦と照らし合わせて考える。 ・次のゲームの作戦を立てる。 <p>4 全体反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作戦に沿ったプレーで得点できた動きについて、勝敗や追究の過程とかかわらせて振り返る。 ・リーグ戦に向けて、チームの作戦や自分の目指す動きを明らかにする。 		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】 「どこへ」返すと相手の捕りにくいボールになるかを考え、三段攻撃の質をより高める動きを仲間と共に追究している。 [思考・判断・表現]</p> </div>